

1. 略歴

2007年3月	東京大学 文学部 思想文化学科 哲学専修課程 卒業
2007年4月	東京大学大学院 人文社会系研究科 基礎文化研究専攻 倫理学専門分野 修士課程 入学
2009年3月	同上 修了
2009年4月	東京大学大学院 人文社会系研究科 基礎文化研究専攻 倫理学専門分野 博士課程 進学
2012年3月	同上 単位取得満期退学
2009年4月	日本学術振興会 特別研究員 (DC1) (~2012年3月)
2012年4月	日本学術振興会 特別研究員 (PD) (~2015年3月)
2014年2月	博士 (文学) 東京大学
2016年4月	皇學館大学文学部 准教授 (~2021年9月)
2021年10月	筑波大学人文社会系 准教授 (~2024年3月)
2024年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

(1) 学位論文

「表現する人間——徂徠学派から賀茂真淵への思想的継受関係の一研究」、東京大学大学院人文社会系研究科、2014.2

(2) 単著

『徂徠学派から国学へ——表現する人間』、全278頁、ぺりかん社、2019.3

『谷崎潤一郎』、全300頁、清水書院、2020.8

(3) 共著

『岩波講座 日本の思想 第四巻 自然と人為——「自然」観の変容』、全320頁、黒住真(編)、岩波書店、2013.8、(「古典を読む『古事記伝』(306-316頁)の執筆を担当。黒住真、阿部泰郎、林享、西村玲、菅原光、若尾政希、清水正之、片岡龍、ブレット・ウォーカー、栗原剛、松田宏一郎の各氏との共著)

『和辻哲郎の人文学』、全320頁、木村純二・吉田真樹(編)、ナカニシヤ出版、2021.3、(「乏しき時代の『論語』——和辻哲郎『孔子』をめぐる」(176-210頁)の執筆を担当。木村純二、佐藤淳一、藤村安芸子、板橋勇仁、宮村悠介、飯嶋裕治、頼住光子、吉田真樹、原浩史の各氏との共著)

『幸福をめぐる哲学者たちの大冒険!——15の試論』、全321頁、五十嵐沙千子(編)、春秋社、2024.1、(「『葉隠』における幸福——椅子取り競争が嫌になった人に」(225-243頁)の執筆を担当。竹村牧男、斎藤環、五十嵐沙千子、佐藤嘉幸、千葉建、津崎良典、保呂篤彦、山口義久、伊藤益、井川義次、堀田和義の各氏との共著)

(4) 学術論文 (全て単独)

「和歌・物語の倫理的意義について——本居宣長の「もののあはれ」論を手がかりに」、『倫理学年報』巻59、217-231頁、日本倫理学会、2010.3

「芭蕉における造化」、『思想史研究』巻11、9-25頁、日本思想史・思想論研究会、2010.3

「技術の思想としての徂徠学」、『倫理学紀要』巻18、156-180頁、東京大学大学院人文社会系研究科倫理学研究室、2011.3

「近世儒者の『詩経』観」、『思想史研究』巻13、17-38頁、日本思想史・思想論研究会、2011.3

「悲泣する人間——賀茂真淵の人間観」、『倫理学年報』巻61、201-214頁、日本倫理学会、2012.3

「おそれとつつしみ——近世における「敬」説の受容と展開」、『日本思想史学』巻44、138-155頁、日本思想史学会、2012.9

「『源氏物語』享受の論理と倫理」、『季刊日本思想史』巻80、3-20頁、ぺりかん社、2012.12

“Between Hermits and Patriots: The Transfiguration in the Nature of Kokugaku Movement Thinkers”【英文】『倫理学紀要』巻21、1-19頁、東京大学大学院人文社会系研究科倫理学研究室、2014.3

「経世済民」から「経済」へ」、『Nyx』巻1、96-107頁、堀之内出版、2015.1

「江戸の情炎——近世日本における「恋」の諸相」、『Nyx』巻2、220-233頁、堀之内出版、2015.12

「日本近世における人間本性論の角逐と帰趨」、『工学院大学研究論叢』巻53(2)、1-13頁、工学院大学、2016年3月

「荻生徂徠と芸道思想」、『思想』巻1112、30-50頁、岩波書店、2016.12

“On the Ethical Meaning of Waka and Mono-gatari: Clued by Motori Norinaga's Mono-no-aware Arguments” 【英文】 *Special Issue of the Annals of Ethics* 2019, pp.57-69, Japanese Society for Ethics, Dec. 2019.

“Japanese-ness' in Philosophy?” 【英文】 *Pre-Modern Thoughts and Philosophy: From Mexican, Peruvian, and Japanese Perspective*, pp.22-27, Ochanomizu University E-book Service, Nov. 2022.

「犬をめぐる論争——国儒論争における動物観の対立と帰趨」、『日本文学研究ジャーナル』巻25、49-63頁、古典ライブラリー、2023.3

(5) 翻訳

『定本 葉隠 [全訳注]』中巻・下巻、中巻全522頁・下巻全624頁、ちくま学芸文庫、2017.11-12、(「聞書第七」(中巻424-511頁)、「聞書第八」(下巻11-193頁)の訳注を担当)

(6) 口頭発表

「宣長における「奇異し」の語の意義」、鈴屋学会、鈴屋学会第26回大会、本居宣長記念館、2009.4.19

「情念と形式——謡曲『砧』を手がかりにして」、日本倫理学会、日本倫理学会第61回大会、慶應義塾大学、2010.10.9

「徂徠学派の孔子像——経世論の外部」、日本思想史学会、日本思想史学会2012年度大会、愛媛大学、2012.10.28

「学知と日常——「漢意」と「真心」の問題圏から」、日本倫理学会、日本倫理学会第65回大会ワークショップ、一橋大学、2014.10.3

「漢文の余白——和学・国学の“比較思想”的伝統について」、比較思想学会、平成26年度比較思想学会第二回東京例会、大正大学、2015.3.7

「人の「生マレツキ」とは何か——近世思想史における「性」論の角逐と帰趨」、ネットワーク日本の哲学第五回研究会、京都大学、2015.3.15

「古えへの夢想——日本ナショナリズムの批判的再検討」日本倫理学会、日本倫理学会第67回大会共通課題(シンポジウム)「ナショナリズムの再検討」、早稲田大学、2016.10.2

「徂徠学・国学のなかの『武』」東海日本思想史研究会、第8回東海日本思想史研究会、愛知学院大学、2017.12.9

“Does 'Eastern Nothingness' Really Exist?” Nature, Technology, Metaphysics: An Encounter Between German and Japanese Philosophy, International Centre for Philosophy, Bonn University, Germany, June 6th, 2019. 【英語発表】

「水戸藩郡制改革と『常陸国風土記』研究」、科学研究費補助金基盤研究(C)「水戸学における地誌の注釈と編纂をめぐる基礎的研究」、主催・公開研究会、皇學館大学、2020.11.14

“‘Japanese-ness’ in Philosophy?” The Philosophical Significance of the Pre-Modern Intellectual Heritage: Latin American/Japanese Philosophy as World Philosophy, online, May 16th, 2021. 【英語発表】

「本居宣長と和辻哲郎——カミ観念と神話解釈をめぐる」、国學院大學研究開発推進機構日本文化研究所、令和3年度第1回国学研究プラットフォーム公開レクチャー、オンライン、2022.2.19

“Transfiguration of Transmission: The Eighteenth-Century Confucianism and Shintō” Transmission in the Eastern Philosophy and Religion (Tsukuba Global Science Week 2022), online, September 27th, 2022. 【英語発表】

「神道の哲学再考——特に穢れ観念に注目して」筑波大学哲学・思想学会、筑波大学哲学・思想学会第43回学術大会、オンライン、2022.10.22

「犬に道ありや?——近世的「禽獣」観の中の賀茂真淵と曲亭馬琴」、日本思想史学会、日本思想史学会2022年度大会シンポジウム「人と動物のかかわりの思想史」、同志社大学、2022.11.5

「儒学と国学——衝突から融合へ」檀國大學校日本研究所、檀國大學校日本研究所国際学術大会「東アジアの知識権力——衝突と融合のアルゴリズム」、檀國大學校、大韓民国、2022.12.20

「哲学・思想の「日本性」?——近世思想の観点から」比較思想学会大会50周年記念大会シンポジウム「日本哲学から見た比較思想と世界哲学——ブレット・デービス先生を迎えて」、大正大学、2023.7.2

(7) その他

高等学校科目「倫理」教員向け指導書：『高等学校新倫理 新訂版 指導と研究』、全458頁、清水書院、2013.3 (「儒教の伝来と朱子学・陽明学/古学」(277-284頁)および「国家意識の高まりと社会主義/近代的自我の成立/近代日本哲学の成立/近代日本の思想傾向への反省/現代の日本と日本人としての自覚」(311-332頁)を担当。佐々木雄大、池松辰男、市原潤、伊藤由希子、井上兼生、木澤景、久保真理、佐野太郎、下城統子、高志直全、長者久保雅仁、長島隆行、森正司、矢倉芳則の各氏との共著)

学界展望：「2011-12年日本朱子学研究綜述」(林松涛：訳) 【中文】、朱子学会(編)『朱子学年鑑 2011-2012』、厦门大学出版社、148-153頁、2013.7

- 学界展望：「2013年日本朱子学研究綜述」（林松涛：訳）【中文】、朱子学会（編）『朱子学年鑑 2013』、155-159頁、
 商务印书馆、2014.10
- 論文集分担執筆：『东亚朱子学的新视野』（汉日对照）16开本・全410頁、朱人求・井上厚史（編）、商务印书馆、
 2015.1（《近世日本“敬”説的容受与展开——以近世前期中江藤樹と山崎闇斎を中心として》【中文】、（曲明：訳、376-
 391頁）および「近世日本における「敬」説の受容と展開——中江藤樹と山崎闇斎を中心として」（392-410頁）
 を担当。朱人求、李明輝、井上厚史、高令印、張品端、邢東風、高熙卓、田世民の各氏との共著）
- 学界展望：「2014年日本朱子学研究綜述」（林松涛：訳）【中文】、朱子学会（編）『朱子学年鑑 2014』、168-172頁、
 商务印书馆、2015.8
- 高等学校科目「倫理」用語集：『用語集 倫理』（新訂第二版、四六判・全322頁、熊野純彦（編）、清水書院、2016.2
 （「宗教と人（Ⅱ）——仏教／中国の思想」（63-93頁）および「日本の風土と思想」（100-175頁）を担当。池松
 辰男、伊藤由希子、佐々木雄大、宮村悠介、山蔦真之の各氏との共著）
- 学界展望：「2015年日本朱子学研究綜述」（林松涛：訳）【中文】、朱子学会（編）『朱子学年鑑 2015』、128-139頁、
 商务印书馆、2016.10
- 対談：「江戸に学ぶサステナブルな都市のあり方」（アズビー・ブラウン／板東洋介）、『情報誌 Cel』巻116、18-23
 頁、大阪ガスエネルギー・文化研究所、2017.7
- 学界展望：「2016年日本朱子学研究綜述」（林松涛：訳）【中文】、朱子学会（編）『朱子学年鑑 2016』、164-175頁、
 商务印书馆、2017.10
- 書評：『宣長はどのような日本を想像したか——『古事記伝』の「皇国』（斐寛紋著）、『日本思想史学』巻50、224-
 229頁、日本思想史学会、2018.9
- 書評：『近世和文小説の研究』（天野聡一著）、『鈴屋学会報』巻36、59-67頁、鈴屋学会、2019.12
- 書評：『徂徠学の思想圏』（中村春作著）、『図書新聞』、2020.1.18号
- 事典編集委員および項目執筆：『日本思想史事典』、全718頁、日本思想史事典編集委員会（編）、2020.4、（編集委
 員、項目「正直と誠」（52-55頁）および概説「江戸中期（泰平の思想）」（421頁）、項目「本居宣長とその門流」
 （430-433頁）を担当。編集委員は全16名、項目執筆者は全212名）
- 書評：Thomas P. Kasulis, *Engaging Japanese Philosophy: A Short History*, Honolulu: Hawaii UP, 2017、『アステイオン』巻
 98、222-226頁、サントリー文化財団、2023.5
- 書評：『徂徠学の思想圏』（中村春作著）、『図書新聞』、2020.1.18号
- 書評：『十七・十八世紀の日本儒学と明清考証学』（石運著）『図書新聞』2024.3.2号

(8) 受賞

- 2010年10月、日本倫理学会和辻賞（論文部門）
 2019年12月、第41回サントリー学芸賞（思想・歴史部門）
 2020年9月、第14回日本思想史学会奨励賞

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

- 東京女子大学現代教養学部（倫理学）（2012.9～2016.3）
 お茶の水女子大学文教育学部（2012.12～2016.3）（2012年度は集中講義、2013～2015年度は通常開講、日本倫理思
 想）
 工学院大学基礎・教養教育部門（倫理学、応用倫理）（2013.4～2016.3）
 東京理科大学理学部第一部（倫理学、応用倫理）（2015.4～2016.3）
 静岡大学人文社会科学部（集中講義、日本倫理思想）（2015.8）
 弘前大学人文学部（集中講義、日本倫理思想）（2015.8～2015.9）
 チューリヒ大学哲学部（集中講義、日本思想）（2016.2）
 東京大学文学部（集中講義、日本思想）（2019.8）、（東アジアの文化と宗教）（2022.10～2023.3）
 皇學館大学文学部（神道思想史）（2021.9～2023.3）

(2) 学会及び社会活動

- 日本倫理学会 会員（2009.4～現在）、評議員（2021.4～現在）、専門間対話ワーキンググループ コアメンバー
 （2021.4～現在）、年報編集委員長（2021.10～2023.10）、共通課題委員（2021.10～2023.10）
 日本思想史学会 会員（2010.5～現在）、評議員（2018.10～現在）、編集委員（2018.10～現在）

神道史学会 会員 (2016.5～現在)、委員 (2018.6～2023.5)

比較思想学会 会員 (2017.4～現在)、評議員 (2018.6～2023.6)、理事 (2023.6～現在)、編集委員 (2022.6～現在)